

## 第11回「いのちの授業」大賞 受賞について

神奈川県教育委員会では、各学校における「いのちの授業」の更なる充実を図るため、平成25年度から「いのちの授業」大賞作文募集を実施しています。

令和5年度は、12,353作品の応募の中から、審査会を経て選ばれた11作品の作文作者と授業実践者が表彰されました。

本市から応募した作品の中から、以下の作品が入賞し、表彰されましたので、報告いたします。

### 1 受賞作品

受賞名 優秀賞  
タイトル 「命でつながっている」  
筆者 長井小学校 4年 田山 光津  
授業実践者 長井小学校 教諭 石橋 直生

### 2 表彰式

令和5年11月27日(月) 神奈川県庁 本庁舎 大会議室

# 第十一回「いのちの授業」大賞 受賞一覧

## 【大賞（知事賞）】 作品名 「ぼくの妹」

筆者

安西 立希

藤沢市立六会小学校 三年

授業実践者

安西 さつき

保護者

## 【教育委員会賞】 作品名 「私の推し牛」

筆者

新明 滯奈

神奈川県立相原高等学校 一年

授業実践者

佐々木 真彩

神奈川県立相原高等学校 教諭

## 【神奈川県新聞社賞】 作品名 「母から子へ、子から僕へ、伝わる温もり」

筆者

下鳥 友佑

神奈川県立相原高等学校 三年

授業実践者

杉山 由吏

神奈川県立相原高等学校 教諭

## 【tvk賞】 作品名 「みんな」

筆者

稲留 千珠

厚木市立小鮎小学校 五年

授業実践者

遠藤 涼

厚木市立小鮎小学校 教諭

## 【神奈川県PTA協議会会長賞】 作品名 「生と死は隣り合わせ」

筆者

大村 ことの

逗子市立沼間中学校 二年

授業実践者

市原 こずえ

助産師

【ともに生きる社会かながわ憲章賞】 作品名 「人それぞれ同じ人はいない」

筆者

有本 美凜愛

茅ヶ崎市立第一中学校 一年

授業実践者

原田 和子

茅ヶ崎市立第一中学校 校長

【優秀賞】 作品名 「いのちのきもち」

筆者

大藤 暖也

南足柄市立岩原小学校 一年

授業実践者

大藤 友香梨

保護者

【優秀賞】 作品名 「命でつながっている」

筆者

田山 光津

横須賀市立長井小学校 四年

授業実践者

石橋 直生

横須賀市立長井小学校 教諭

【優秀賞】 作品名 「私の大切なたからもの」

筆者

松澤 晴乃

藤沢市立六会小学校 五年

授業実践者

松澤 美奈子

保護者

【優秀賞】 作品名 「いのちの重み」

筆者

羽切 翼

清川村立宮ヶ瀬中学校 二年

授業実践者

佐古 忠

清川村立宮ヶ瀬中学校 教諭

【優秀賞】 作品名 「本当の平和へ」

筆者

小山 優音

相模原市立相陽中学校 三年

授業実践者

橋本 美樹

相模原市立相陽中学校 教諭

## 優秀賞

「命でつながっている」

横須賀市立長井小学校

四年 田山 光津

「命ってだれかにあげたり、もらったりすることができませんか。」  
道徳のじゅ業で、先生が私たちにしつ問しました。私をふくめてクラス全員が、

「できないでしょ、できたらこわいじゃん。」  
と、言いました。私もその時は、命は一つしかなく分けることができないと考えていました。

しかし、じゅ業の終わりがわ、考えが少し変わりました。  
道徳の時間、「五百人からもらった命」を読みました。読んだ直後は、自分の思いは変わらなかつたけれども、最後のふり返りを書きながら、文を思い起こした時にふと思ったことがあります。もし、「けん血」という活動がなかつたら、道徳で読んだ話のかん者は、命が助かつていなかつたかもしれませぬ。でも「けん血」という活動があつたおかげで命が救われたと思ひました。だから、けん血に協力した人は、命を分けたことになるのではと考へました。

私のお父さんもその一人です。私のお父さんは、よくけん血を

しています。その理由はわかりませぬ。そこで、お父さんにインタビューしてみました。

「どうしてよくけん血をしているの。」  
と、聞いてみると

「パパは、A Bがたでしょ。A Bがたの人は少なくて血がたりてないんだよ。それにパパが手術するつてなつたら血を最後に足すでしょ。だからおたがいさまなんだよ。」

「たしかにそうかもしれぬ。」  
と思ひました。

けん血は、命があぶないかん者、血を全て入れかえなくてはならない人のためにあります。けん血した人の血が他の人の体内に入ると、けん血した人は、だれかの命を救つたことになりませぬ。けん血する人の中には、

「前に子供がけん血で命を救つてもらつたから。」  
などと、おんがえしとして来る人もいるそうです。一つの命のためにもんががつながつています。だから、  
「私、前に子供がけん血してもらつたから、けん血に協力しよう。」

とおかえしの気持ちが生まれると考へました。

大人になつたら、お父さんのようにけん血をしようと思ひました。まず、自分の命を一番に大切にし、そのうえで、人の命をできるかぎりで救つてあげたいです。けん血以外でも、たとえば、町でたおれている人がいたら、一一九番をかけて、救急車をよん

だりするなど役に立ちたいです。こんな小さなお手伝いが本当  
は、大きなお手伝いだと思います。